



**santec**

証券コード 6777

# 2007年3月期 通期決算の概要

2007年5月15日

# 2006年 通期決算 ハイライト

---

- ◆ **営業利益 5期ぶりの黒字** (2001年度以来)
- ◆ **売上高3,073百万円 前年度比27.7%増**
- ◆ **キャッシュ・フロー +82百万円**
  
- ◆ **日本市場、光部品事業が牽引**
  
- ◆ **2007年 業績見通し**
- ◆ **売上高24.7%増 復配を目指す**

# 2006年 実績(連結)

**売上高27.7%増加 ほぼ当初予想通り**

(単位 百万円)

	05年 実績	06年 当初予想	06年 実績	前年度比		予想値差異	
売上高	2,406	3,020	<b>3,073</b>	667	+27.7%	+53	+1.8%
営業利益	▲259	—	<b>37</b>	297	(+114.5%)	—	—
経常利益	▲300	95	<b>▲11</b>	289	(+96.3%)	▲106	(▲111.8%)
純利益	▲303	90	<b>20</b>	323	(+106.6%)	▲70	▲77.7%

# 2006年 総資産および純資産の状況(連結)

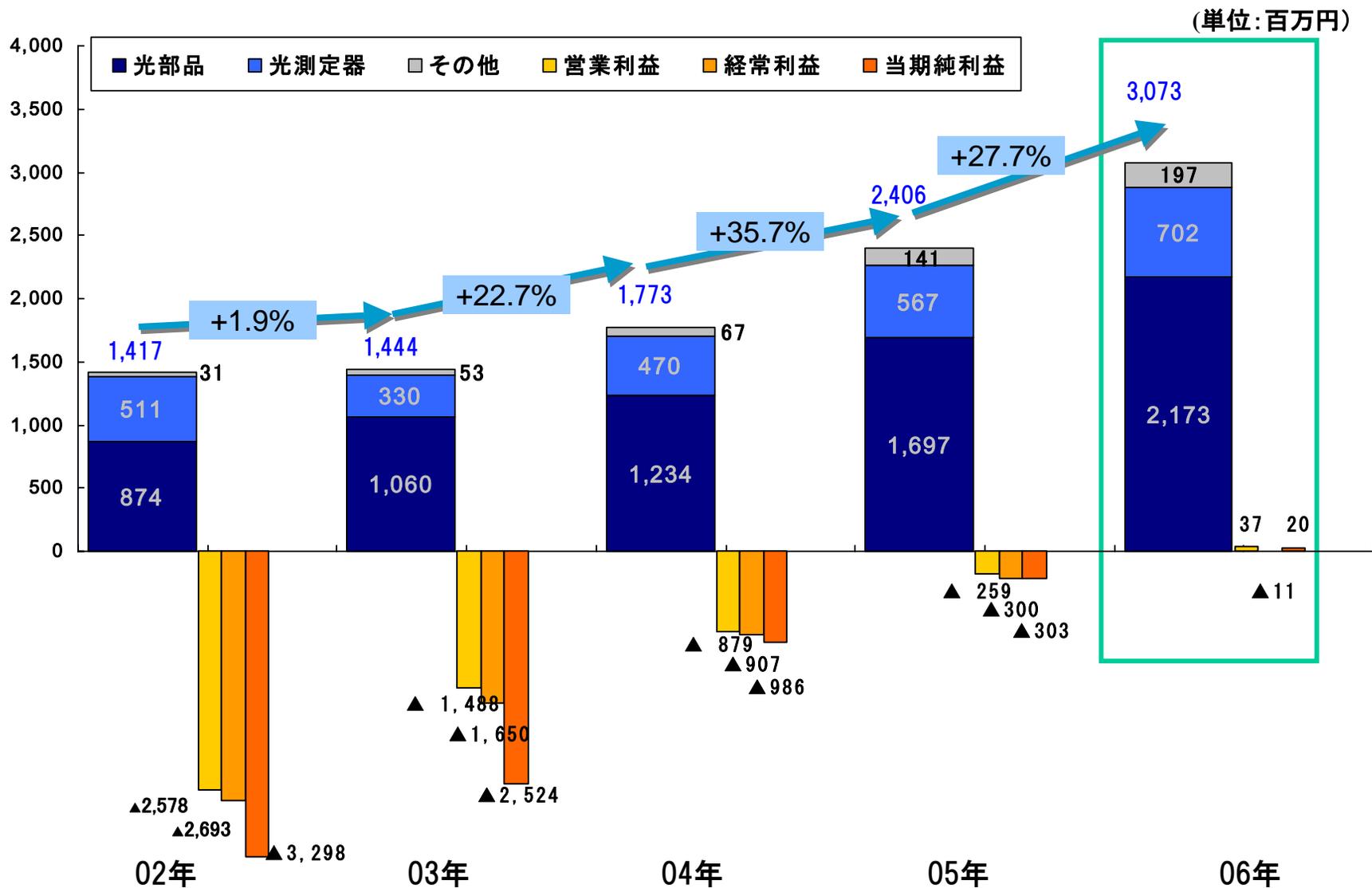
## 総資産 増加に転じる

(単位 百万円)

	05年 実績	06年 実績	前年度比	
総 資 産	7,606	<b>7,660</b>	54	+0.7%
純 資 産	6,853	<b>6,892</b>	39	+0.6%
株主資本比率(%)	90.1%	<b>90.0%</b>	-	▲0.1 (%)
一株当たり純資産(円)	574.06円	<b>577.31円</b>	3.25	+0.6%

# 業績の推移(連結)

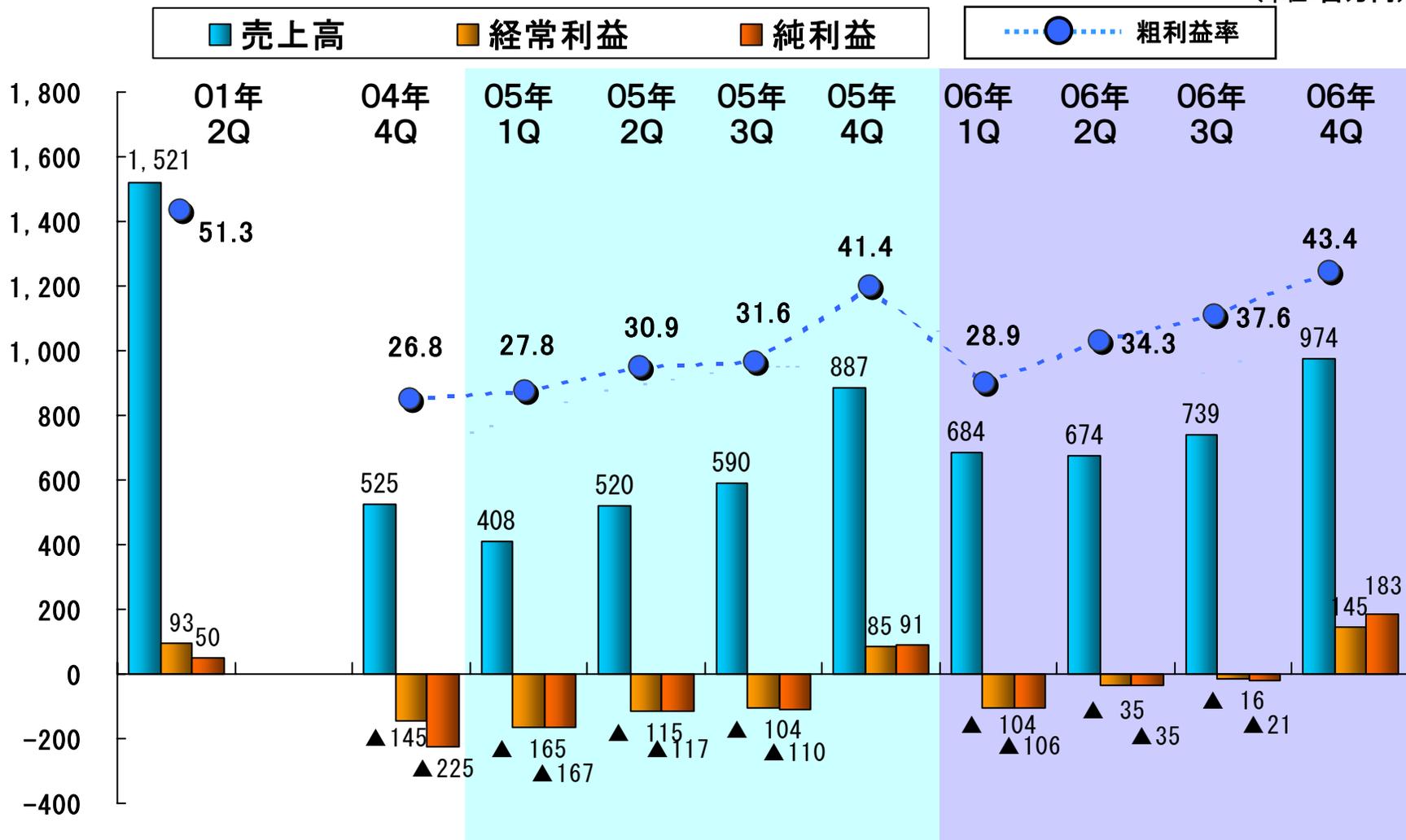
## 売上高 年20%以上の成長を継続



# 業績の推移(四半期・連結)

## 売上回復基調 業績改善進む

(単位:百万円)



# キャッシュ・フロー(連結)

## キャッシュ・フロー +82百万円

※残高について・・・保有国債699百万円分は含まない。

(単位:百万円)



期首残高

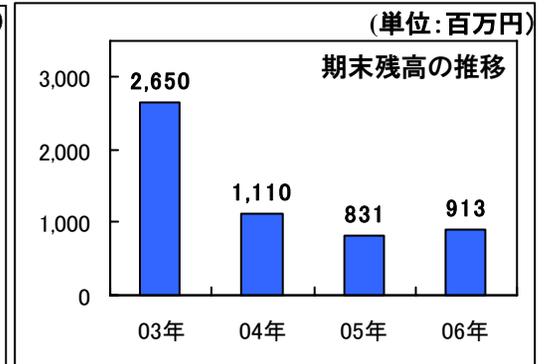
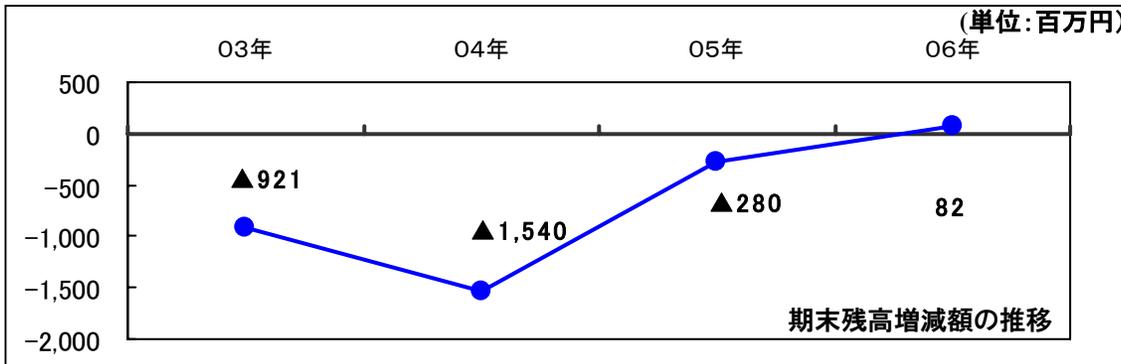
営業

投資

財務

換算差額

期末残高



# 事業別実績(連結)

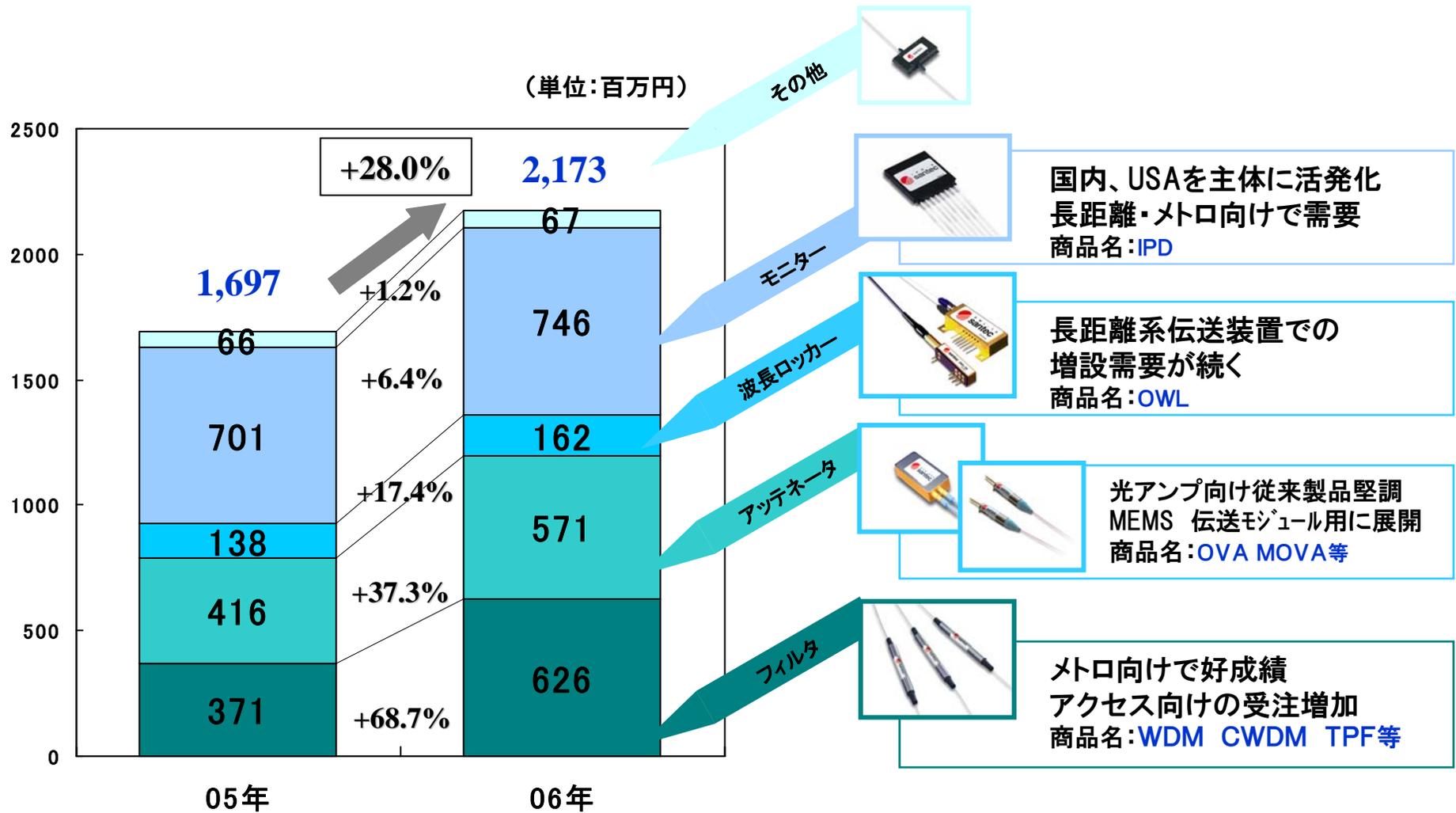
## 全事業で前年度比20%以上の増収を実現

(単位 百万円)

	05年 実績	構成比	06年 実績	構成比	前年度比	
光部品	1,697	70.5%	<b>2,173</b>	70.7%	+475	+28.0%
光測定器	567	23.6%	<b>702</b>	22.9%	+135	+23.8%
その他	141	5.9%	<b>197</b>	6.4%	+56	+40.2%
うち ソフトウェア	134	5.6%	<b>194</b>	6.3%	+60	+44.3%
合計	2,406	—	<b>3,073</b>	—	+667	+27.7%

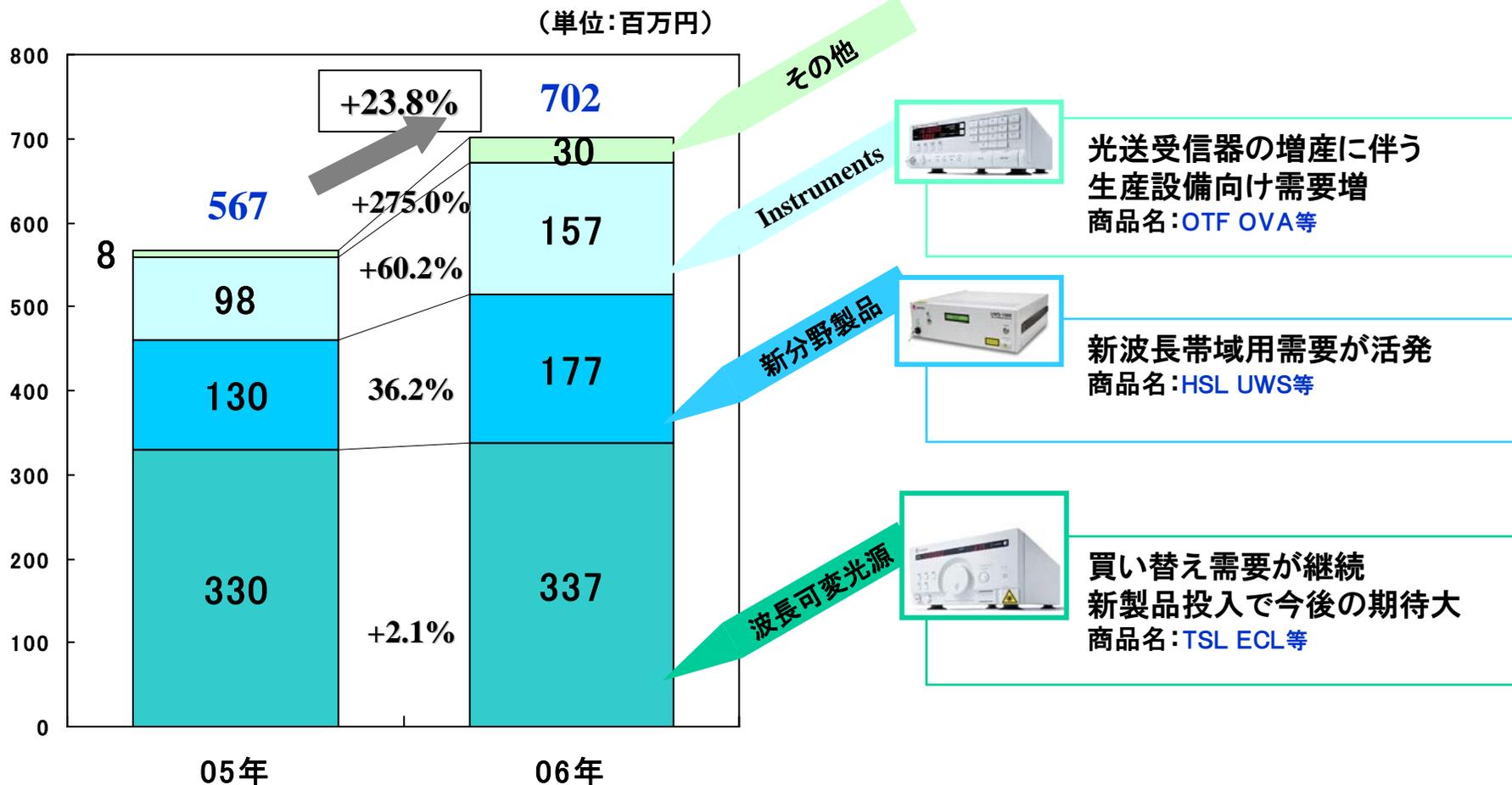
# 事業別売上高(光部品)(連結)

## 全品種で売上が増加



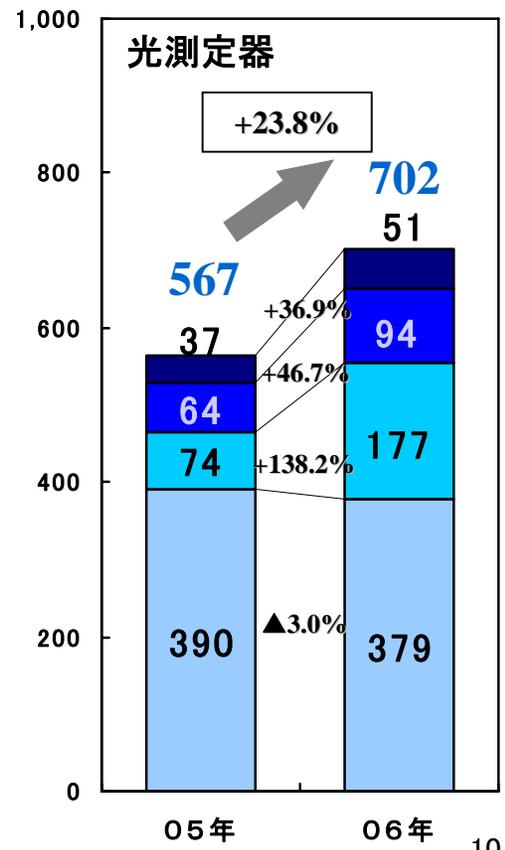
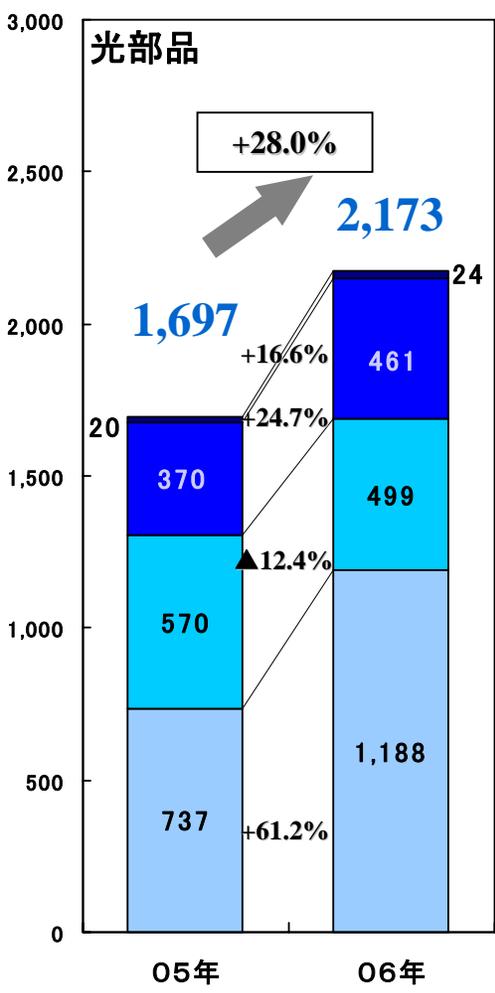
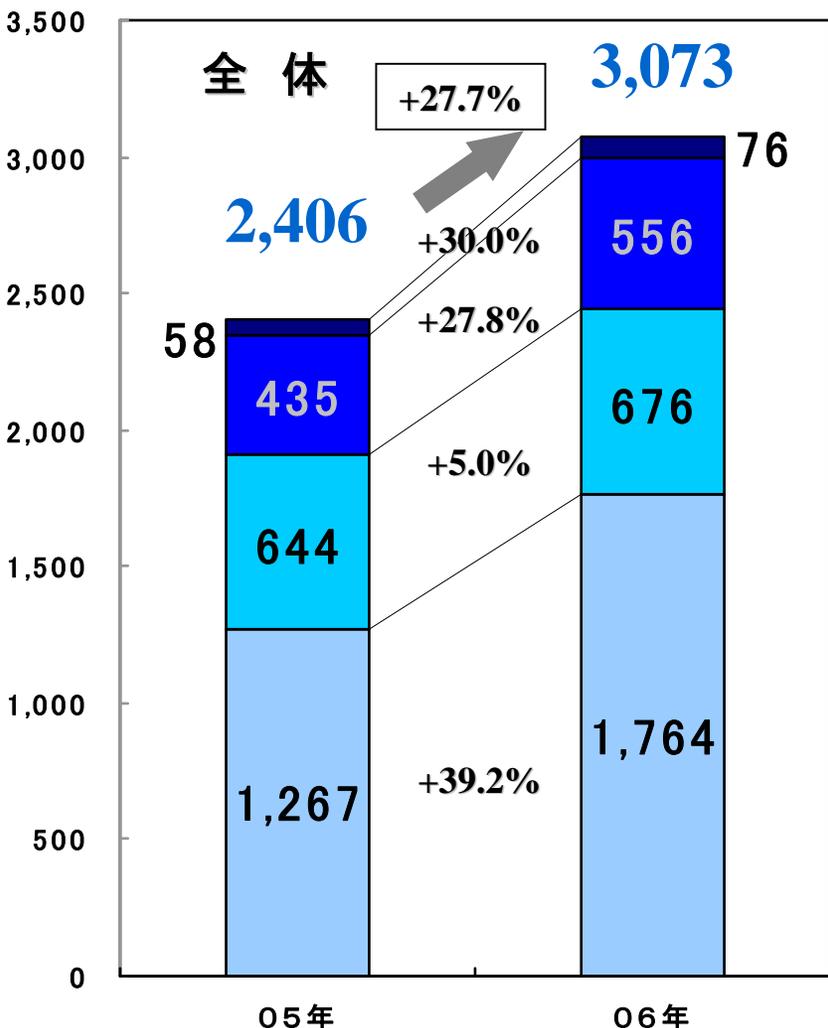
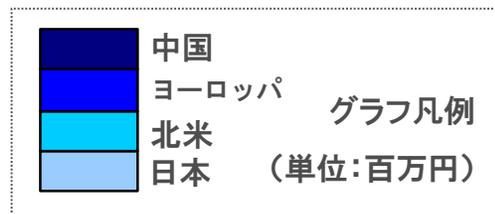
# 事業別売上高(光測定器)(連結)

## 生産ライン向け検査器が健闘



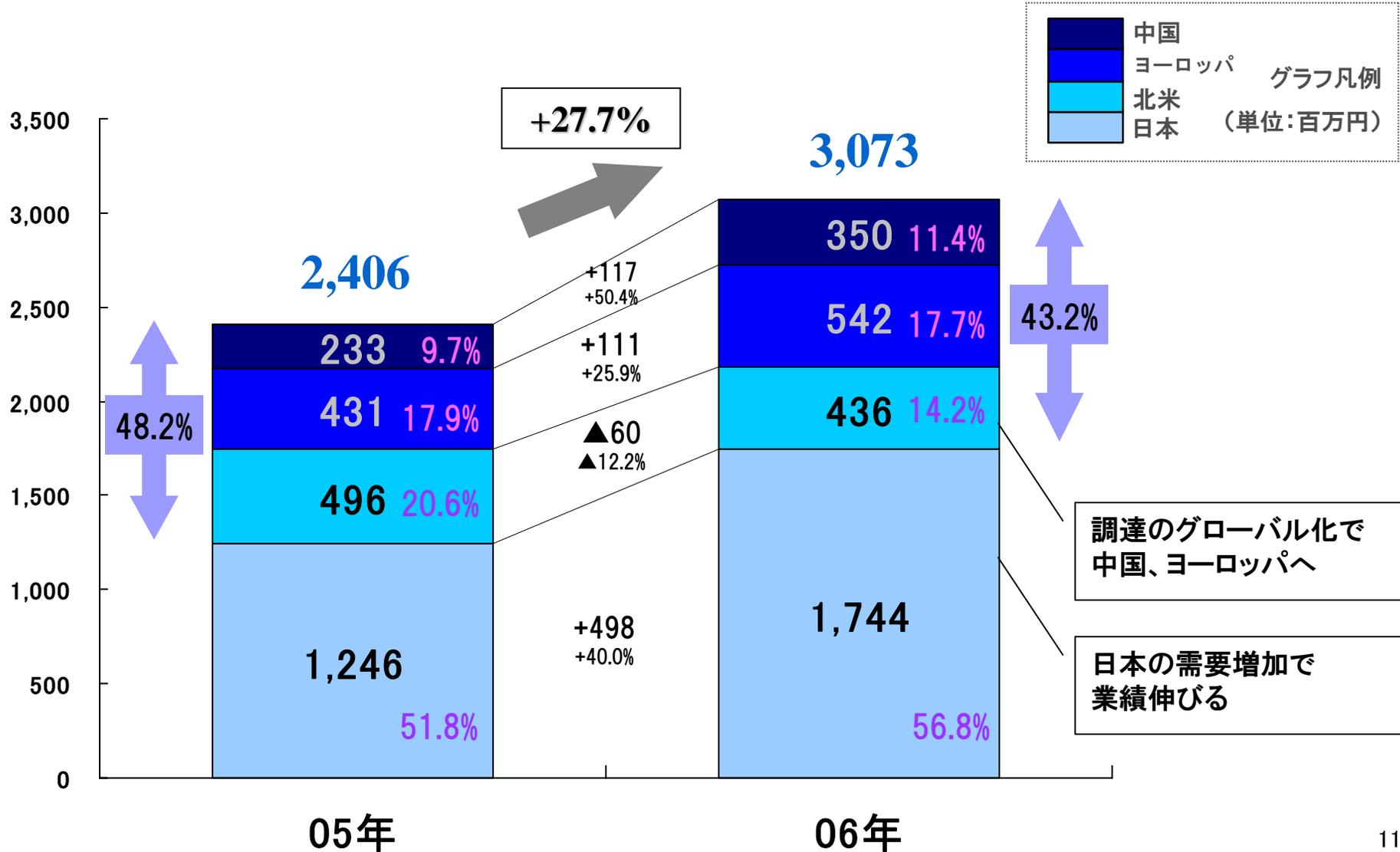
# 拠点別売上高(拠点/製品構成・連結)

## 日本の光部品が伸びる



# 地域別売上高(仕向地別・連結)

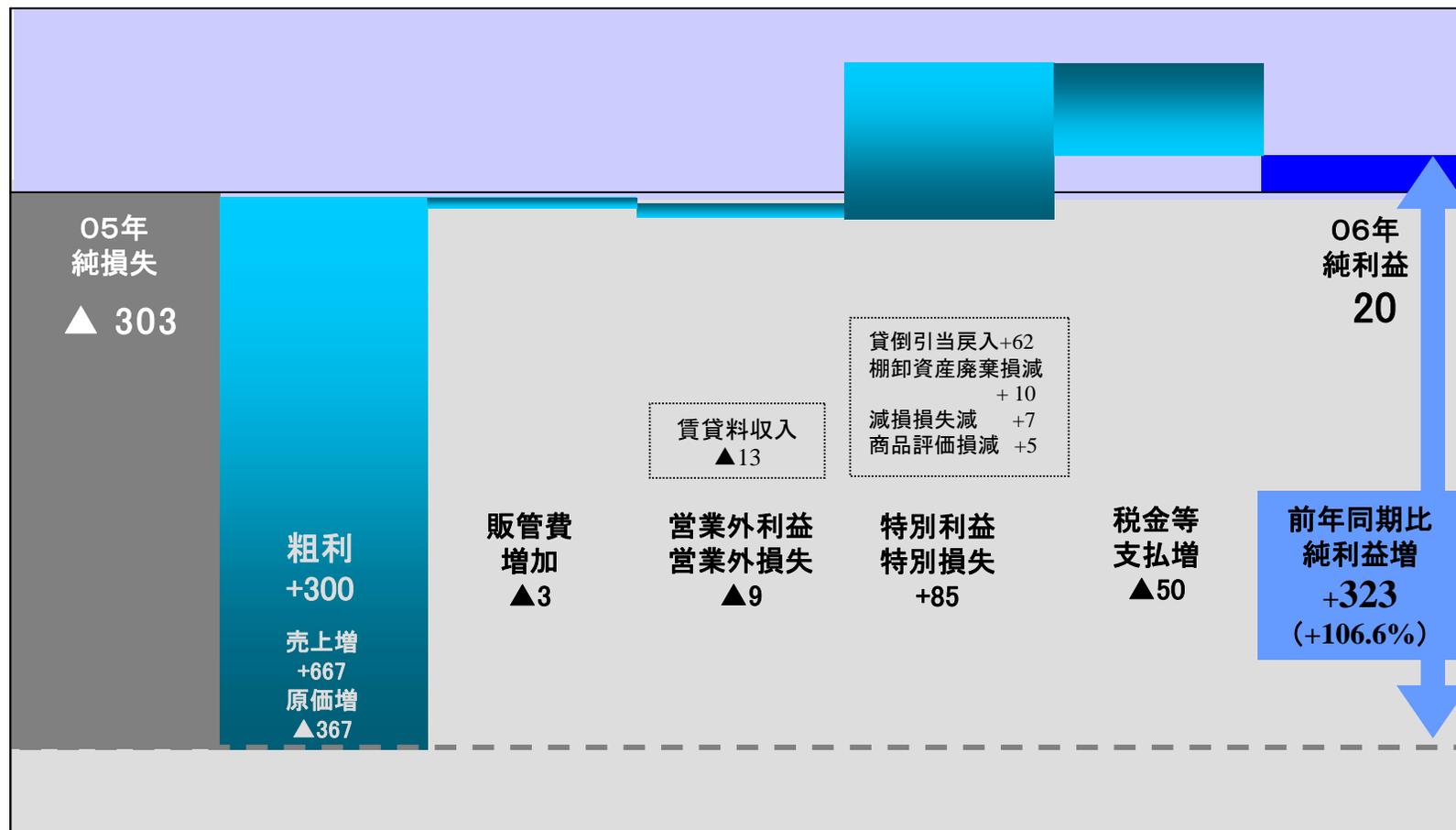
## 日本と中国が伸びる



# 当期純利益増加の要因分析(連結)

## 売上増加と販管費抑制が奏功

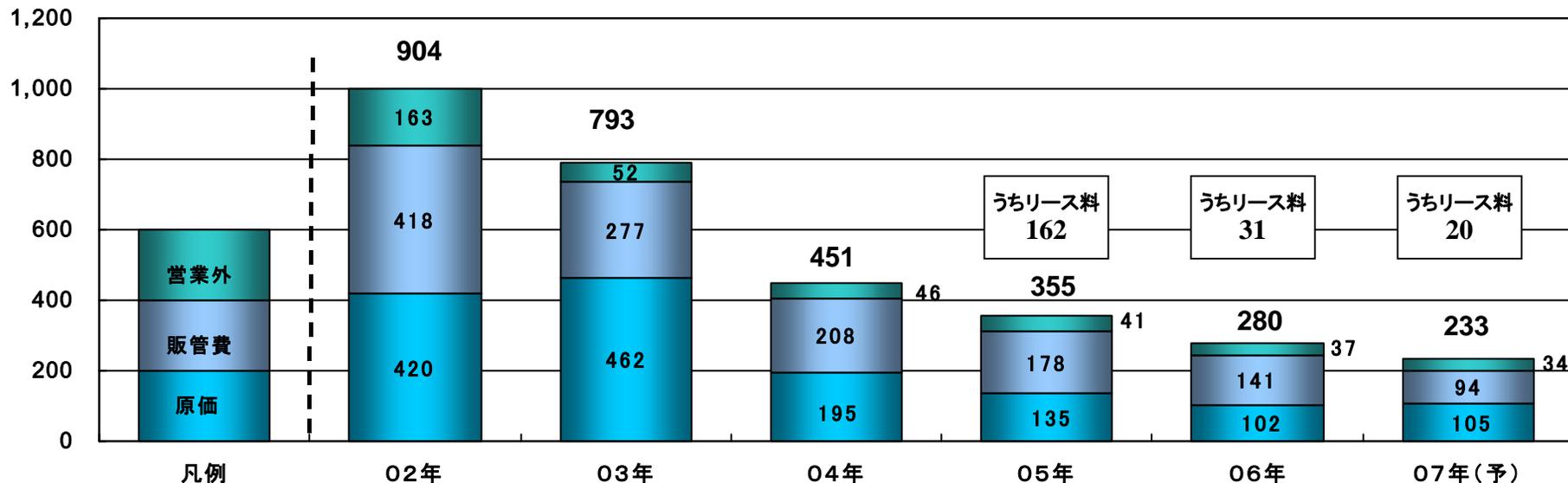
(単位:百万円)



# 減価償却・リースと投資の推移(単体・通期)

## 負担圧縮が進む

(単位:百万円)



02年		03年		04年		05年		06年		07年度(予)	
投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額	投資内容	投資額
本社敷地	79	製造設備	168	製造設備	28	製造設備	13	製造設備	29	製造設備	26
製造設備	87	ERPシステム	12	業務ソフト	3	営業機材	6	営業関連	6	開発関連	19
ERPシステム	110					運搬車両等	2			その他	5

投資計	276	180	31	21	36	50
研究開発費計	303	285	259	220	217	252

# 2007年通期予想(連結)

## 06年度比 24.7%の成長を見込む

(単位 百万円)

	06年 通期実績	07年 中間予想	07年 通期予想	前年度比(通期)	
売上高	3,073	<b>1,610</b>	<b>3,834</b>	+761	+24.7%
営業利益	37	<b>▲62</b>	<b>275</b>	+238	+627.5%
経常利益	<b>▲11</b>	<b>▲81</b>	<b>235</b>	+246	(+2136.3%)
純利益	20	<b>▲86</b>	<b>225</b>	+205	+1019.2%

# 当社を取り巻く環境

# 世界のブロードバンド環境

## 光ファイバー網の社会インフラ化

### ◆ 日本

- ◆ xDSL初の純減 2008年にはFTTHが逆転か(約800万世帯/06年12月末)
- ◆ NTT NGNに300億円の投資(2007年度)
- ◆ NGNを軸にベンダの活動が活発化
- ◆ 携帯電話会社基地局の光化が進む

### ◆ ワールドワイド

- ◆ ブロードバンドの進展とトラフィック増加
  - ◆ ブロードバンド普及率 欧州勢が躍進(上位10位中8カ国が欧州)
  - ◆ 東南アジア=北米海底ケーブル始動(2008年末完成予定)
  - ◆ TV・映像配信を意識
- ◆ 大型業界再編
  - ◆ AT&T再統合進む
  - ◆ テレフォニカ(スペイン)、テレコムイタリアの経営権取得

# 光通信市場を動かす技術

## 「統合・快適」と「安定・安心」

### • NGN (Next Generation Network: 次世代網)

- 既存の通信網を全IP化するために研究されている共通規格
  - 広帯域かつ品質(QoS)制御可能 オール・パケットベース
- ITUで 規格「リリース1」が完成＝勧告へ

ネットワークの  
劇的改革

### • FMC (Fixed Mobile Convergence: 固定・移動体融合)

- 携帯電話端末と固定通信を融合するサービス
  - ◇ 自宅にいるときは携帯端末で固定通信が可能になる
  - ◇ 固定・携帯の番号統一(総務省主導で体系固まる)

携帯トラフィック  
増加に拍車

### • TPS/QPS (Triple Play Service/Quadruple Play Service)

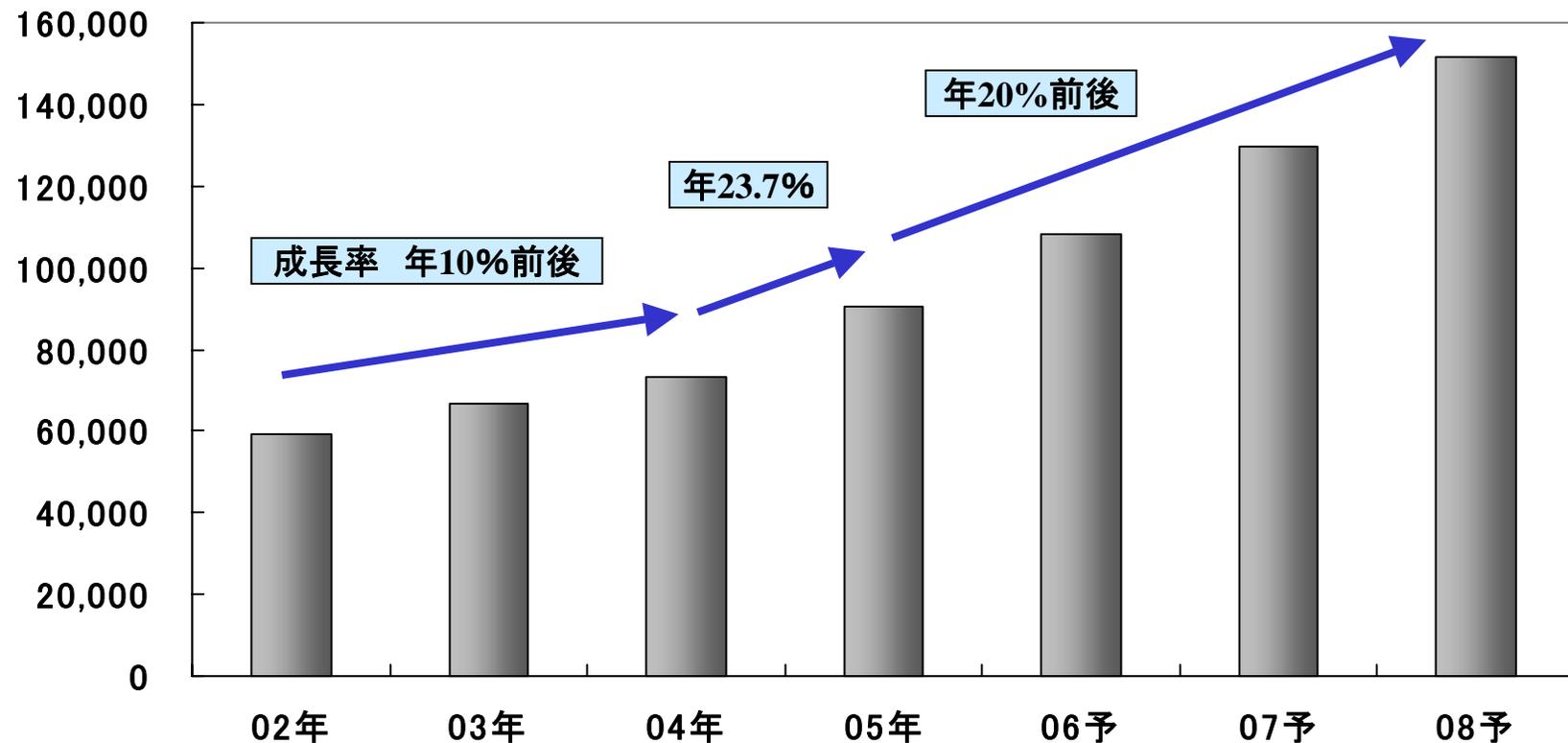
- 音声・データ・映像を一本の光ファイバで伝送(トリプルプレイ)
  - ◇ 地上波問題を残しつつ本格サービス開始(日本)
- トリプルプレイに、更にモバイルを加えるクアドルプルプレイ

Access向け  
設備投資増加

# 光受動(パッシブ)デバイス市場の推移

## ロング・メトロ市場が回復基調

単位:百万円



光パッシブデバイスには、MUX・DEMUX、光アイソレータ、光カプラ/スプリッタ、光減衰器、光通信用レンズ、光通信用誘電体多層フィルタを含む。

# 光ネットワークの市況



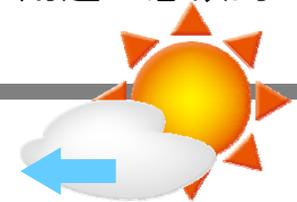
## Long Haul

トラフィック増対応のための増設投資が堅調  
次世代網(NGN)勧告案の完成で投資機運高まる  
海底ケーブル敷設投資が動き出す



## Metro

FTTHに押し上げられ需要発生  
携帯電話向けのバックボーン投資が強い  
40Gなど高速・柔軟・エンタープライズ用途が意欲的



## Access

日本FTTHリード、北米追従、欧州・アジアこれから  
インターネットが一般的なインフラとして定着  
放送の取り込みが推進役



# 光通信業界における構造変化

## (1) 放送と通信の融合、無線と有線の共存

新サービスの発掘、制度問題抱えながら風穴をあける動き

AT&T Verizon NTT BT CATV各社

## (2) グローバル化

開発、設計、生産、販売拠点が分散、多様化

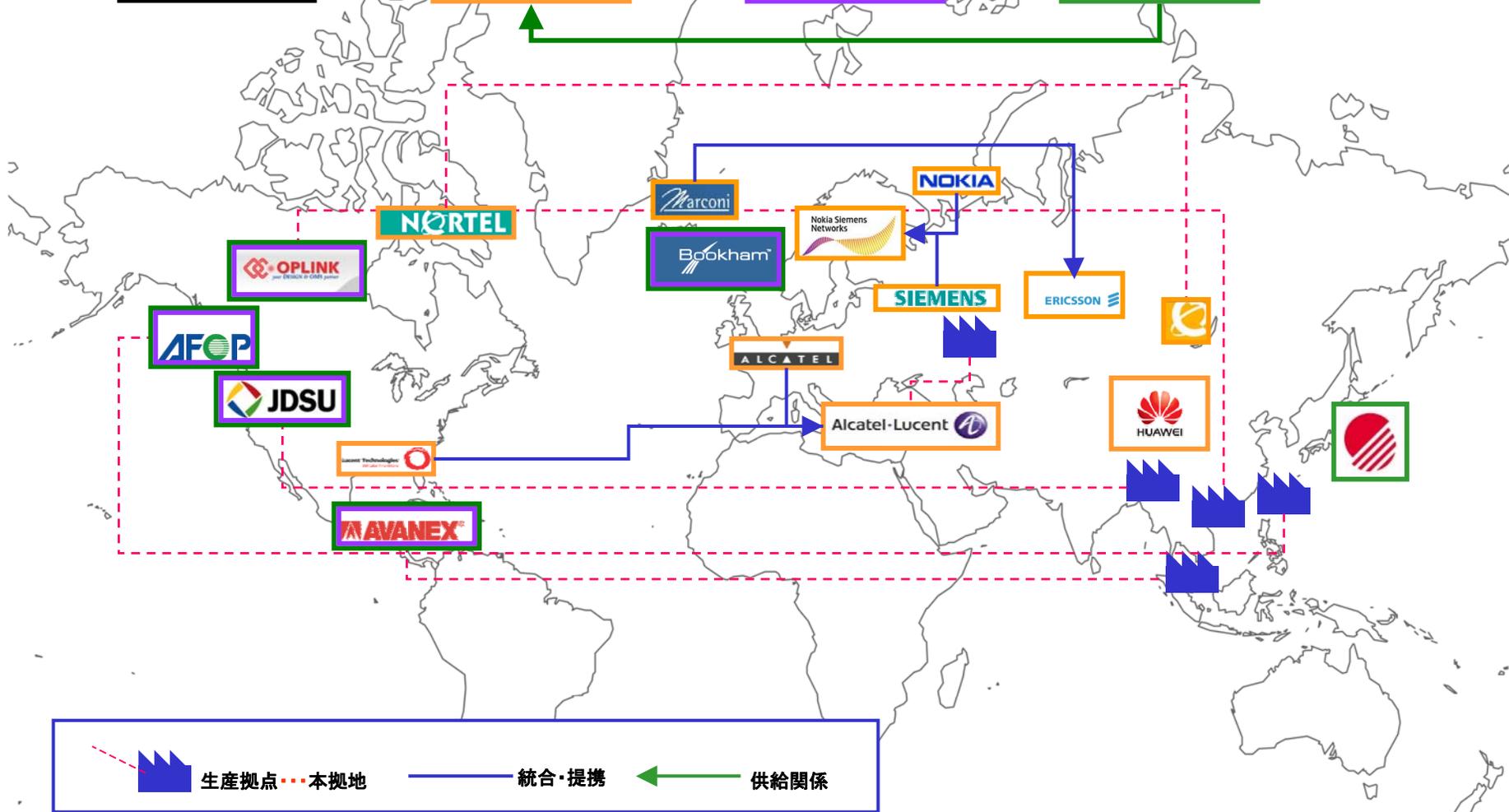
Alcatel-Lucent Marconi-Ericsson Nokia-Siemens JDSU Bookham Avanex

## (3) 生産自動化への機運

最適地の模索、生産技術と方法における質的転換

40G or 100G Ring to Mesh Networks G(GE) to WDM PON

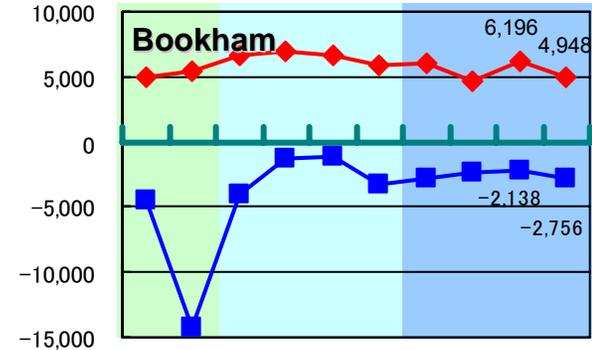
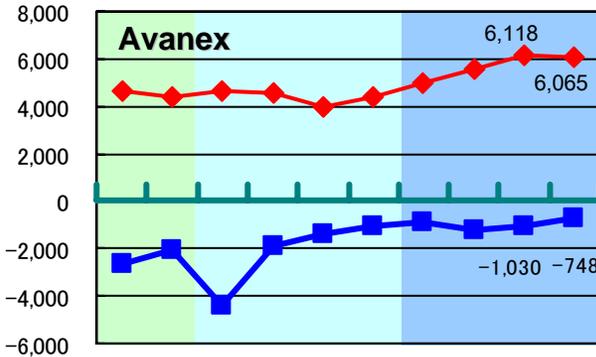
# グローバル化が著しい光通信業界



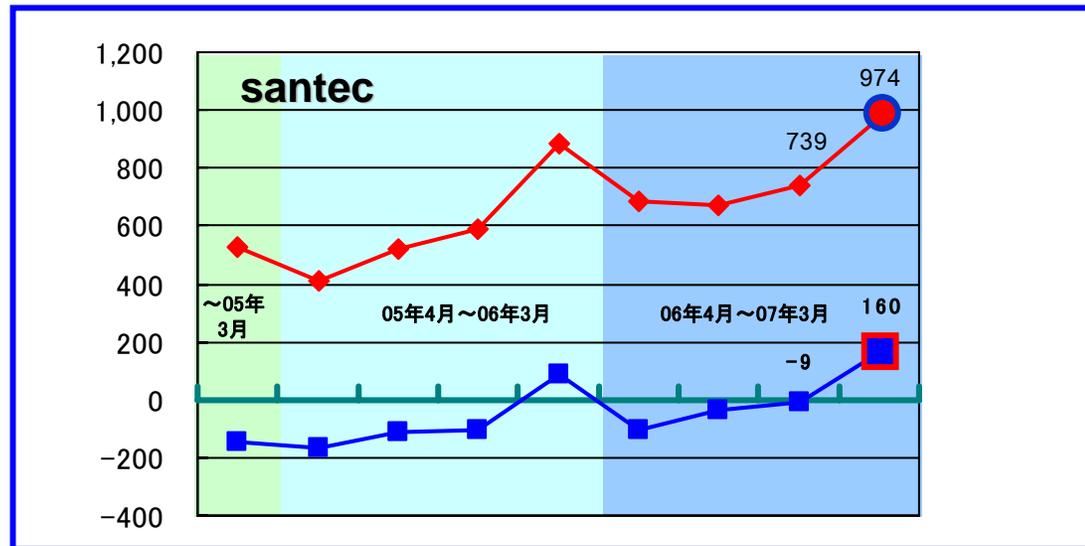
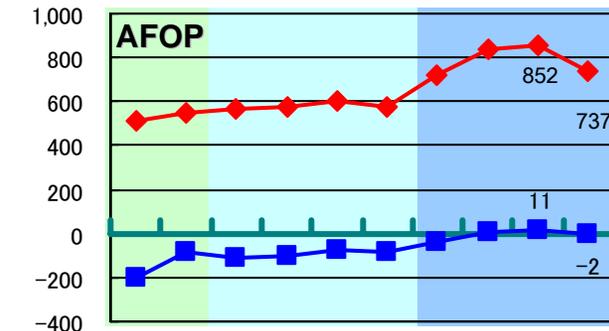
※掲載されたロゴマークは各社のトレードマーク、登録商標等です。ロゴ等の配置は地理上の場所と一致していません。  
 ※本資料は、当社の知見に基づいて、参考のために作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。

# ベンチマーク 四半期業績の推移比較

## 一部で黒字化 回復鮮明に



単位: 百万円  
◆ 売上高  
■ 営業利益



※各社開示資料から弊社作成。海外企業については1ドル=110円換算で表示しています。  
 ※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。

# 2007年度 全社基本方針と経営目標

# 2007年度 全社基本方針と経営目標

## ■基本方針

グローバル化が拡大する市場への対応と新分野事業の強化

## ■経営目標

1. 営業強化による顧客と事業の拡大

2. ユニークな新製品の創造

3. 群を抜く生産性向上

4. 業務・財務体質の強化

## 営業強化による顧客と事業の拡大

### ■顧客密着度の向上

- ・PLM、営業フロントの同期
- ・顧客接触回数増と内容充実
- ・魅力あるQDCの提供と粗利益の追求

※PLM・・・ Product Line Manager

### ■海外営業力の強化

- ・精度の高い顧客情報の入手と攻撃的活用
- ・グローバル対応力強化と拠点間連携体制構築

### ■新分野事業の拡大

- ・医療用OEM光源の販売促進
- ・厳選した新規市場・新規分野の開拓

## ユニークな新製品の創造

### ■高い技術力と明確なニーズに立脚した新製品開発

- ・顧客、大学、研究機関に密着した製品開発
- ・NGN向け光部品、サブシステムへの注力
- ・ユニークな医療用OCTの先行実現

※ NGN:Next Generation Network(次世代ネットワーク) OCT:Optical Coherence Tomography(光干渉断層計)



波長ブロッカ

### ■コスト意識の徹底と原価低減の推進

- ・現流品後継機種との早期開発と戦力化
- ・開発、設計からベンダー、材料開拓を含めた開発



OCT装置で撮影した生体の画像。  
(オタマジャクシ)  
動くものでも、傷つけず、鮮明に撮影することができる。



OCTシステム

## 群を抜く生産性向上

### ■光部品製品の海外生産化促進

- ・モニタ製品の中国生産化

### ■海外資材調達力の拡大と強化

- ・部品調達先のマルチベンダー化拡大
- ・調達先間の連携強化と物流改善

### ■生産改革活動による内製コスト削減

- ・セル生産化拡大とレベルアップ
- ・自家設備開発による作業合理化



中国協力会社の製造ライン



開発された自家設備

## 業務・財務体質の強化

### ■コンプライアンス経営の徹底

- ・J-SOX法における内部統制への対応
- ・内部監査体制の強化

### ■財務体質の改善

- ・キャッシュフロー管理の強化
- ・在庫、仕掛金額の見直し削減

### ■業容拡大に向けた人材確保と育成



*The Photonics Pioneer of Networking*

— ネットワーク時代の光技術先駆者になる —